

# 地質調査技士に合格して

地質基礎工業(株)

稻葉 裕光



今回、三度目の正直で地質調査技士に合格できました。この場を借りて、ご指導頂いた先輩方や協力会社の方々へ感謝の意を表したいと思います。さて、私が合格するまでの過程を紹介しようと思います。

## <受験理由>

入社当時、地質調査とは何か、この資格は何なのかさっぱり解りませんでした。しかし、地質調査の仕事に携わって行く中で、地質調査技士とは会社の為、勿論自分の技術向上の為に必要なことに気付きました。さらに、発注者に対しても信用・信頼を得ることが必要であると思い受験することにしました。

## <受験対策>

- 受験対策として一般的ではありますが、
- ①東北地質調査業協会主催の事前講習会を積極的に受講する。
  - ②県協会主催の事前講習会に積極的に参加する。
  - ③ボーリングポケットブックを何遍も熟読する。
  - ④過去問を何遍も繰り返し解いて、間違った所や解らない所は、講習会のテキストを参考したり職場の人聞く。

以上のことを行うことで、記述試験において高得点を獲得でき合格に一歩前進することができると思います。自分が一番言いたいことは、過去問を覚えるくらいの(何年度の何問目か)努力をしないと合格できないということです。なぜかと言うと、いくら過去問で九割出来たからといって、本番は七割程度ですから。また、午後の口頭試験は、質問された内容に自信を持って答えることが一番重要です。変に解ったような態度をしても試験官には、ばれてしまします(プロですから)。解らないときは、はっきりと「わかりません」と答え、いやな雰囲気を変えることが必要です。

## <受験当日>

当日は、天候、体調共に非常に良く余裕を持って試験会場に到着しました。席順は、前後とも同社の人だったのでリラックスして試験に臨むことが出来ました。

午前中(記述問題)は、ほとんど悩むことなく順調に問題を解いたつもりだったのですが、昼休みの自己採点の結果は、納得いく内容ではありませんでした。と言うのは、過去の合格点より判断するとギリギリのラインだったからです。

しかし、気を取り直して午後の口頭試験に臨みました。自分の順番が近づくにつれ緊張しました。名前を呼ばれ試験室に入り、席に座り深呼吸をして質問に答えました。心の中では、「はっきりとした口調で自信を持って答える」と言うことに専念することによって、自分では試験官に対しアピールできたと思います。

## <合格そしてこれから>

全国地質調査業協会連合会より封筒が郵送され、いつも(二回目まで)と封筒の厚みが違うのに気付きました。まさか!という心境で中を見ると、な、なんと合格証が入っているではありませんか。そのときの喜びは未だに忘れていません。同時に一人の技術者として、第一歩を踏み出すことができたと思いました。

これからは、責任感を強く持ち、より多くの経験をし、いろいろな技術を取り入れていきたいと思います。

最後に地質調査技士に合格するには、  
“何事にもあきらめないこと”が重要である。  
という感想を添えて、私の体験談を終わります。

(株)ダイヤコンサルタント  
**北澤 浩二**



### 1.はじめに

私が地質調査技士に合格してから、3ヶ月が経過しようとしております。周りで大きな変化はみられませんが、少しは現場のオペレーターの方にもしっかりと説明ができるようになつたかなと自分では思い始めております。

今回は、私が地質調査技士の受験動機と、いかにして合格したかについて書こうと思います。

### 2.受験の動機

私が地質調査技士の試験を受ける動機は、2つありました。1つは、現場のオペレーターの方に指示を与えるときに説得力が増すということです。私は、業務で主に現場管理を担当しているので、いかにオペレーターの方にボーリング調査の目的を理解してもらい、適切な作業を行ってもらうかという点が非常に重要な仕事となってきます。この説明の段階で、諸先輩の方の話を聞くと、地質調査技士の資格があると、オペレーターの方が説明をよく聞いて納得してくれることが多いというアドバイスがあり、これが受験動機の1つとなりました。

2つ目の受験動機は、現場作業に対する施主の安心感が増すということです。施主によつては現場管理者の基礎的な資格として認めている所もあり、私が現場管理者として認められるためにも、地質調査技士の資格は必須のものと考えた次第です。

### 3.勉強方法

勉強の方法ですが、「地質調査を生業とするものにとって、地質調査技士の試験勉強というものは毎日の仕事そのもので特に勉強をする必要はありません」と言い切ればいいのですが、やはり難しいところはあります。

私の場合は、過去問題集を解き、試験問題の傾向と自分の苦手とする分野を把握するよ

うにしました。といっても、仕事の段取りが悪く、試験勉強としてまとまった時間をとることがほとんど不可能でしたので、問題集をA5くらいに縮小してつねに携帯し、空き時間（移動中や食事前、就寝前など）に1問、2問と問題を解いていきました。この時、まず1年分の試験問題を一通り解き、7割程度正しい答えが導き出せる部門（「基礎知識」から「管理技法」）に関しては勉強しないこととし、7割に満たないものを集中的に勉強することとした。

私の場合は、「掘進技術」の中のボーリングに関する部分がほとんど解けないことが判明したため、この箇所の過去問題集を3年分にわたり解きました。私のような現場管理と報告書作成を主たる仕事としているものにとって、「掘進技術」は難問が揃っており、当然といえば当然の結果だったのですが、今思えば、この分からぬところを自分で把握することが非常に重要だったと思います。

つまり、分からぬところを把握することで、現場に行ってオペレーターの方に会うたびに「あれはなに」、「これはなに」、「どこをどうやって操作するの」、「泥水はなにを使うの」という非常に具体的な質問を投げかけることが可能になりました。以前までは、何が分からぬか自分でも分かっていないため、オペレーターの方に質問ができないような状態でした。それが、地質調査技士の試験勉強をはじめて、ようやく自分に不足している所がわかり、ボーリングの掘進技術に関して、飛躍的に知識を得たような気がします。

なお、私とは逆に、ボーリングのオペレーターの方などで、「調査技術の理解度」や「管理技法」といったところが苦手の方は、現場管理をする人に質問を投げかけると適切な答えが返ってくるものと思います。つまり、現場管理をする人は、「なぜこの試験をここでしなければならないのか」、「掘止はどうしようか」、「どうやつたら

現場がスムーズに進むのか」といったことを考  
えていると思いますので(たぶん)。

#### 4. 試験当日

試験は、筆記試験と面接試験に分けられており、午前中は筆記試験が行われました。筆記試験に関しては、まったく分からなくても4分の1の確率で正解になるという気楽な気持ちで試験に臨みました。これが良かったのか、運が良かったのか定かではありませんが、午後、答え合わせをした結果、おおよそ合格ラインを超えていました。問題としていた「掘進技術」についても、それなりに点数が取れており、勉強した結果がでたような気がします。

午後からの面接試験に関しては、「地質調査技士にどうしてもなりたいです」、「今後とも地質調査の仕事を通じて、技術力の研鑽に励みます」という意志を全面に押しました。質問に対する答えが不十分なものでも、やる気のあるところを見せれば何とかなるだろうという安直な考えでしたが、何とかなりました。

その後、自宅に合格通知が郵送され、地質調査技士として登録する運びとなりました。

#### 5. おわりに

私が地質調査の仕事に従事しはじめてから、4年の歳月が過ぎました。入社当時、私を指導してくれた先輩が地質調査技士に合格し、いろいろと教えていただいたことを思い出します。当時は、何も分からずに周囲の足ばかりひっぱつっていた私も今年の地質調査技士の試験に合格することとなり、今度は私が後輩に教えて行かねばならない立場となりました。技術を伝えるという意味からも地質調査技士の試験というのは役立っているのかもしれない、ふと思ったりします。

また、地質調査技士の資格は、地質調査に従事するものとしては必須の資格であり、この資格にふさわしい技術力を持った技術者になるよう、今後とも精進していかねば、と考えております。

(株)菊池技研コンサルタント  
**鈴木 真理**



今頃になって地質調査技士の資格を取得した私に、この寄稿依頼の話が来たときはとんでもない!と思いましたが、こんな人でも合格することが出来るという事を、恥ずかしながら書かせて頂きます。

実は前に一度試験を受けに行ったことがあります。4年前、高卒経験年数5年の月日が過ぎた時です。その当時の私は、5年という月日は経っても地質調査も何もほとんど分からぬ状態でした。地質課に所属しているというだけで、現場に出て

調査をしているのではなく、調査した方々が書いた報告書のとりまとめ～製本までの仕事と土質試験をしていました。土質試験をしていたので土にいつも触っていましたが、ただ試験法に従つてやっているだけの作業しか捕らえられませんでした。自分自身技術者になりたいのかどうか、まだ先が見えていなかったのだと思います。そんな毎日を送っていたので、受験資格があると言ってもピンと来ません。セミナーや講習会にも参加させて頂きましたが、女性の数が圧倒的に少なく、何十人かの参加者の中で女性が私だけだった時などは、逆にこんな業界は嫌だと思ってしまったこともあります。仕事をすることは好きでしたが、地質調査に対しての意識は薄く、受験間近になつても「受かるはずがない」と決めつけ、ただボーリングポケットブックを眺めているだけでした。実際私にとって試験問題はあまりに難しく、知識の無さを痛感し、この時初めてこのままでは駄目だと本当に気付いたような気がします。

その後は、地質の仕事を覚えたいという意識が高まり、工程の許す限り現場に同行し、今までやつてきた土質試験やとりまとめ作業が、どのような現場状況で、どの土質試験が必要なのか、その結果をどう利用すればいいのかなど自分の入りやすいところから上司に教わったり、作業の合間に調べてみたりと、本当に少しずつですが理解しようとしました。現場に行く機会が増えると、ますます資格を持たなくてはいけないと言うことを感じさせられました。検尺で監督官が来る前に、説明してみてくれと言われた（練習させられた）ことや、相手にしてもらえたことetc…些細な出来事ではありますが、この鈍くさい私でもかなりの悔しさを覚えました。でもその現場での厳しさがまた、私の小さな向上心に火を着けてくれたと今では有り難く思っています。そんな中、会社の方からは受験するようにと毎回言われていましたが、自分ではまだまだ受ける段階に無いと思い、会社には申し訳ない事と感じつつ4年後の今回ようやく受験した訳です。

意識が変わると勉強の仕方も自ずと違い、今回の受験勉強は、まず過去問題7年分どれが出題されても確実に正解できるまで繰り返し解くこと。理解できない問題は理解できるまで調べ、今まで見てきた現場ややってきた各種の試験とつなぎ合わせるようにイメージしました。2ヶ月前から規則的に勉強することにし、1ヶ月前からは時間を長く取るようにしました。私にとって一番辛かったのは時間が無かつたこと。家には小学2年生の長男と1年生の長女、そして1才の二女がいるので、平日はもちろんですが休日も自分の時間はありません。試験があるからといって家事や育児をおろそかにしたくなかったので、（大したことはやっていませんが…）子供たちが眠りについてから勉強を開始し、どんなに短くても絶対に12時前にやめない事にしました。あまりに疲労し、次の日の仕事に差し支えそうな日は、思い切って勉強をせず早く休むようにしました。休日も同じです。

試験当日は、必ず合格するつもりで意気揚々出かけましたが、最初に配布された記述試験問題を見て目が点になってしまいました。…が、過去問題がほぼ完璧であれば、記憶の片隅にでも残っているし、応用も利きます。予想外の問題でしたが、なんとか合格通知をこの手に取ることができました。

はじめにも述べましたが、これでやっと地質調査をさせてもらえる身になった、スタート地点に立つことが出来たのだとしても嬉しく思います。地質調査の難しさや責任の重大さに、私にはとうてい無理じゃないかと思うこともしばしばですが、ゆっくりでも確実にレベルを上げるよう勉強し、まだまだ遠いのですが、自分の住む地域を中心に活躍の場を広げていけるよう邁進していきたいと思います。夫が施工業者に勤めていることもあって思うのですが、設計資料としての地質調査と施工段階でのアドバイザー的な地質調査とやっていけたら…等と生意気なことまで考えている今日この頃です。受験に際しまして、励まして下さった方々、協力して下さった上司には本当に感謝しています。ありがとうございました。

(株)自然科学調査事務所

**澤野 幸輝****1.はじめに**

入社当時は、業務打ち合わせの時は勿論のこと、現場作業やデーター整理に於いても「何を聞けばいいのだろう?」「何をすればいいのだろう?」「何処を観察すればいいのだろう?」と分からぬことばかりで、「早く仕事を覚えない」と焦りや不安で押し潰されそうでした。しかし、仕事に慣れ始めると、新しく見る物、聞く事が面白く興味が湧いてくるを感じるようになっていました。

最近では多少の経験・知識が付いてきたのか現場においても、オペレーターの方々と上手にコミュニケーションを取ることが出来るようになり、比較的スムーズに作業を進める事が出来るようになってきました。また、業務に携わる上では様々な資格が必要であることも痛感し始めました。

そこで、地質調査業務に携わる上で発注者に対して最低限の信用・信頼を得ると伴に、自分自身のステップアップを図るために「地質調査技士」の資格を取得しようと思い受験に挑みました。

**2.受験に向けて**

まず、私の試験対策は、傾向と対策を知るため講習会への参加から始まりました。この講習に参加して、合否は「一定の合格点」ではなく「一定の合格率」に規制されている可能性が高いと知り非常に驚きました。そして、「1点」の重さを改めて感じました。

講習会が終わってからの1カ月間は、特に以下の点に努めました。

- ①過去の試験問題集・講習会のテキストを自分で解いてみる。
- ②解けなかった問題は、ボーリングポケットブックで調べる等により「暗記」ではなく「理解」するように努める。
- ③現場では、普段から見慣れてる物、やり慣れてる作業においても細かく注意するなど問題意識を持つことに努める。
- ④可能な限り毎日勉強をする。

また、現場に関する問題については、今まで経験した事を思い出す。先輩・オペレーターの方々の体験談などを聞くのもいい勉強になりました。

**3.いざ、試験!**

試験前日は緊張をほぐすため食事程度に飲む予定でしたが、現実逃避からか、ついつい飲み過ぎてしまいました。しかし、この事が功を奏して(?)かなりリラックスした状態で試験に臨むことができました。今思うと、余計なことを考えられなくなっていた&開き直っていたようです。

試験は、午前中に筆記試験(択一式問題と記述問題)、午後に口頭試験になっており、午前の筆記試験に関しては幾つか分からない問題もありましたが、試験勉強の甲斐があつてか、まずまずの出来でした。

そして、最大の難関と踏んでいた午後の口頭試験は、今年から試験官2人に対して受験者が3人の形式になっており面接の時間が若干長くなっていました。

ここで、口頭試験で出題された問題を幾つかご紹介します。

**●経験した業務に関する質問****●安全管理について****●原位置試験の留意事項****●湧水・逸水時の対処方法**など

質問事項に対して、ハッキリとした口調で答えると頭では思っていたのですが、前の人と答えが一緒になってしまったり、急に質問されてオロオロしてしまい、自分の経験・知識不足を痛感しました。

**4.今思うこと**

試験が終了してしばらくたち、試験のことを忘れ始めてた時に、合格通知が自宅に届きました。自分では口頭試験で失敗したと思っていたので、合格通知を見てかなり喜びました。

今回私は、地質調査技士資格検定試験に合格しましたが、これからは、「地質調査技士」の名に恥じないように、また常に問題意識と責任感を持ちながら、仕事に取り組んでいきたいと思います。